

報道機関各位

令和 7 年酒田港の取扱貨物量について（速報値）

概 要

酒田港の令和 7 年取扱貨物量は、外貿貨物（輸出入）が 1,586,529 トン（前年比-12.3%）、内貿貨物（移出入^{※1}）が 798,072 トン（前年比-7.3%）、全貨物量が 2,384,601 トン（前年比-10.7%）となった。

コンテナ貨物量（実入りコンテナ）は、輸移出・輸移入合計が 5,265TEU^{※2}（前年比-16.8%）となった。また、コンテナ取扱個数（空コンテナ込）は、輸移出・輸移入合計が 9,003TEU（前年比-9.4%）となった。

リサイクル貨物量は、輸移出・輸移入合計が 492,100 トン（前年比+19.1%）となった。

酒田港

令和 7 年取扱全貨物量の概要

- ・・・別紙参考資料－ 1

令和 7 年コンテナ貨物量の概要

- ・・・別紙参考資料－ 2

令和 7 年リサイクル貨物量^{※3}の概要

- ・・・別紙参考資料－ 3



※1 「移出」：貨物を国内の他の地域へ送り出すこと。「移入」：貨物を国内の他の地域から移し入れること。

※2 「TEU」：20 フィートコンテナ換算のコンテナ取扱量の単位。40 フィートコンテナ 1 個は 2TEU。

※3 平成 15 年に酒田港は、国土交通省から、生産や消費活動で排出されたものの輸送の拠点となる総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）の指定を受けた。

[問合せ先]

県土整備部空港港湾課 課長補佐 松永 睦 TEL : 023-630-2447
広報監 県土整備部次長 牧野 義幸

令和7年取扱全貨物量の概要

取扱全貨物量については、グラフ1のとおり、外貨貨物が1,586,529トン(前年比-12.3%)、内貨貨物が798,072トン(前年比-7.3%)、合計が2,384,601トン(前年比-10.7%)となった。

上位5品種については、表1のとおり、「木材チップ及び薪炭」、「セメント」が増加したが、「石炭」、「揮発油及びその他の石油」、「窯業品」は減少した。

「石炭」が全体の46.7%を占めており、また、上位5品種で酒田港全貨物量の80.5%を占めている。

グラフ1 過去5年間の全貨物量の推移

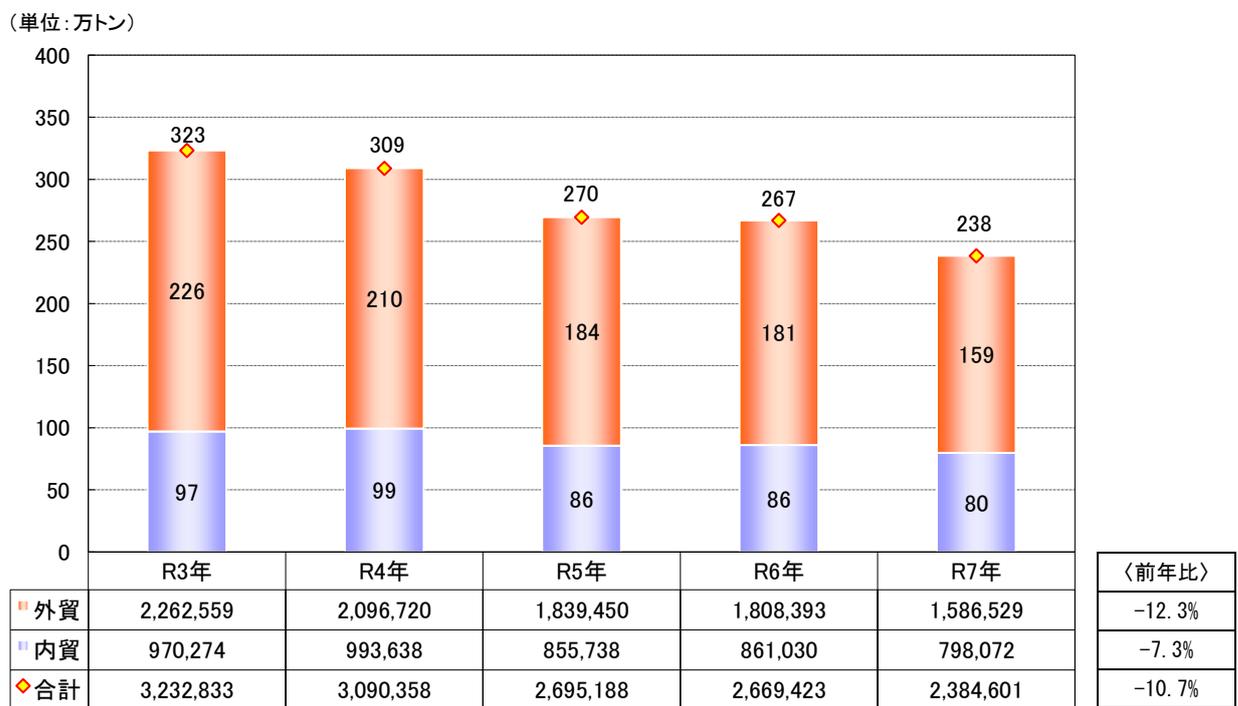


表1 主要品種別の貨物量の推移

(単位:トン)

品 種	R3	R4	R5	R6	R7	割合	前年比 R7/R6
石炭	1,783,713	1,706,517	1,487,795	1,440,228	1,112,758	46.7%	-22.7%
木材チップ及び 薪炭	121,566	112,287	96,612	192,382	311,837	13.1%	+62.1%
揮発油及び その他の石油	326,517	311,503	293,087	292,012	290,632	12.2%	-0.5%
窯業品	188,847	198,058	151,973	138,589	111,478	4.7%	-19.6%
セメント	118,547	128,627	122,798	80,561	92,452	3.8%	+14.8%
その他	693,643	633,366	542,923	525,651	465,444	19.5%	-11.5%
合計	3,232,833	3,090,358	2,695,188	2,669,423	2,384,601	100.0%	-10.7%

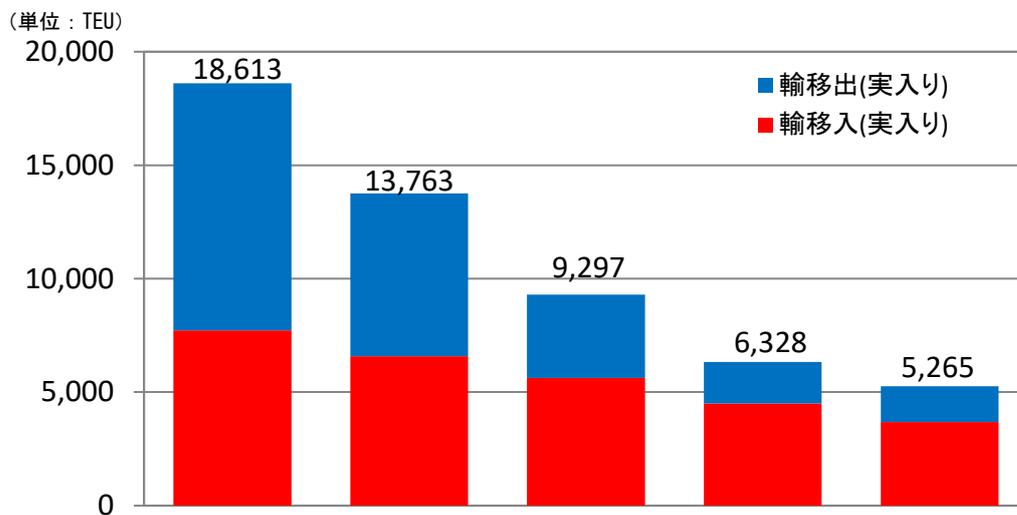
※ 「揮発油」及び「その他の石油」は、平成29年までの「石油製品」が、平成30年度から細分化された品種であるが、前年までとの比較のため、本資料では2つの品種を合算して計上した。

令和7年コンテナ貨物量の概要

コンテナ貨物量(実入りコンテナ)については、グラフ2のとおり、輸移出が1,580TEU(前年比-13.3%)、輸移入が3,685TEU(前年比-18.2%)、輸移出入合計が5,265TEU(前年比-16.8%)となった(コンテナ取扱個数(空コンテナ込み)については、【参考】のとおり)。

品種別では、表2のとおり、輸移出量上位5品種では「その他製造工業品」、「再利用資材」、「産業機械」が増加し、「原木」、「自動車部品」が減少した。輸移入量上位5品種では「製造食品」、「自動車部品」「染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品」が増加し、「化学薬品」、「豆類」が減少した。

グラフ2 過去5年間のコンテナ貨物量の推移



種別	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年	〈前年比〉	
実入りコンテナ	輸移出	10,897	7,184	3,675	1,823	1,580	-13.3%
	輸移入	7,716	6,579	5,622	4,505	3,685	-18.2%
	合計	18,613	13,763	9,297	6,328	5,265	-16.8%

【参考】

種別	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年	〈前年比〉	
空コンテナ	輸移出	4,395	4,424	3,321	2,948	2,964	+0.5%
	輸移入	7,938	3,843	1,643	664	774	+16.6%
合計(空コンテナ込)	30,946	22,030	14,261	9,940	9,003	-9.4%	

表2 主要品種別のコンテナ貨物量の推移

(単位: TEU)

品 種	輸 移 出						品 種	輸 移 入					
	R3	R4	R5	R6	R7	前年比 R7/R6		R3	R4	R5	R6	R7	前年比 R7/R6
その他製造工業品	299	250	282	299	370	+23.7%	化学薬品	716	733	724	714	670	-6.2%
再利用資材	410	254	238	212	254	+19.8%	製造食品	906	627	613	627	641	+2.2%
原木	64	0	191	354	238	-32.8%	豆類	559	323	330	668	450	-32.6%
自動車部品	297	192	196	179	175	-2.2%	自動車部品	629	622	482	241	318	+32.0%
産業機械	62	60	47	27	87	+222.2%	染料・塗料・合成樹脂 その他化学工業品	185	156	132	219	301	+37.4%
その他	9,765	6,428	2,721	752	456	-39.4%	その他	4,721	4,118	3,341	2,036	1,305	-35.9%
合 計	10,897	7,184	3,675	1,823	1,580	-13.3%	合 計	7,716	6,579	5,622	4,505	3,685	-18.2%

※四捨五入の関係上、内訳項目を合計したものが、合計と一致しない場合がある。

令和7年リサイクル貨物量の概要

リサイクル貨物量については、グラフ3のとおり、合計で492,100トン（前年比+19.1%）であった。

リサイクルポートに指定された平成15年の196,821トンと比較すると、約2.5倍となっている。

品目別では、表3のとおり、「バイオマス燃料」、「鉄鋼スラグ」、「廃プラスチック」が増加し、「石炭灰」、「金属くず」、「中古品（自動車部品等）」が減少した。

グラフ3 リサイクル貨物量の推移

(単位:トン)

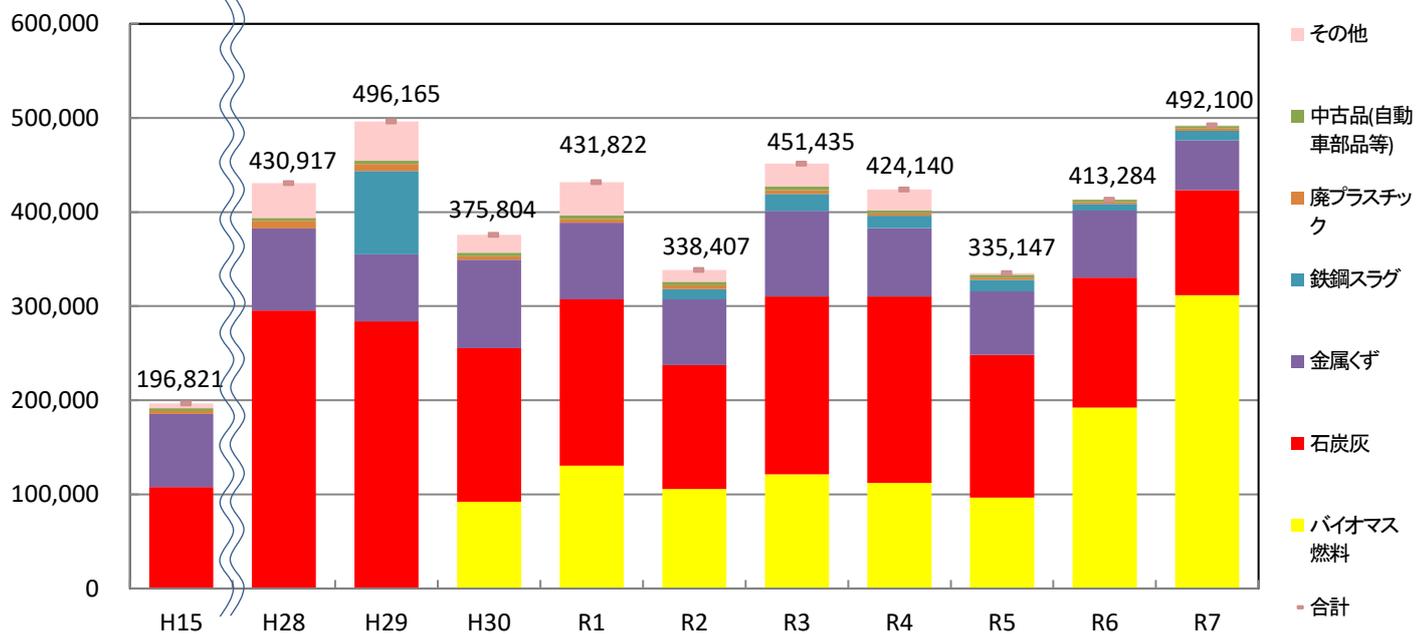


表3 主要品目別のリサイクル貨物量の推移

(単位:トン)

主要品目	H15	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	前年比
バイオマス燃料	0	0	0	92,335	130,454	105,837	121,450	112,194	96,512	192,282	311,837	+62.2%
石炭灰	107,963	295,305	283,834	163,094	176,811	131,581	188,800	198,037	151,774	138,210	111,442	-19.4%
金属くず	77,430	87,188	71,360	93,968	81,283	69,873	90,884	72,626	67,417	71,094	52,987	-25.5%
鉄鋼スラグ	0	0	88,375	0	0	11,000	18,060	13,360	12,130	7,000	10,070	+43.9%
廃プラスチック	3,260	8,180	7,500	3,720	4,320	3,840	4,100	2,540	2,380	2,138	2,540	+18.8%
中古品(自動車部品等)	2,948	3,142	3,601	3,766	3,626	3,940	4,030	3,160	3,040	2,540	2,518	-0.9%
その他	5,220	37,102	41,495	18,921	35,328	12,336	24,111	22,223	1,894	20	706	+3430.0%
合計	196,821	430,917	496,165	375,804	431,822	338,407	451,435	424,140	335,147	413,284	492,100	+19.1%